

言寸

言義

土木學會誌 第十一卷第四號 大正十四年八月

## 北上川筋降雨量出水最高水位の關係

(第十卷第五號所載)

會員 工學士 並 川 熊 次 郎

本年一月土木學會總會に際し中山博士が河川に關する講演中洪水豫報に言及せられたるは河川工事従業の一員として尙又頻々たる災害に艱む一箇人としても眞に空谷跫音の感ありしに今又本會誌第十一卷第二號に於て標題の拙著に對し提案の勞を惜まれざりしは意外の光榮とする所なり。

拙著の目的は一般的洪水豫報の資料を得るにあるは勿論なるも余が此難問題に敢へて突進せし直接の動機は北上川改修工事竣功後附屬新設せらる可き水門、開門、洗堰、可動堰の取扱に萬全を期せんがため今より水位調節に關する資料を蒐集し近き將來の竣功期に備へんとするに在り。されば洪水防禦には殆んど無關係なる小出水をも調書に網羅し非常大洪水と同列に取扱ひたる如きは上記の目的に相應せしめんが爲なり。單に洪水豫報の爲ならば問題は數等簡易と成り其有效雨量算出に必要な係數  $a, a', a''$  は彼の如く驚く可き煩雜を呈せざる可きなり。讀者は此係數値撰擇の杜撰にして且つ甚だしく複雑なるを見られなば拙著は眞に文字通りの愚論にして到底實用に供さる可くも非らずとの感を懷かるゝならんか、然れども余が此煩雜を敢へてせる所以は上記の係數は單に拙著に添附せる平均雨量と出水位との對照表作製に必要なのみにして一度此種の附表の精確なるものを得んか係數は勿論公式の計算さへも省略するを得べく、豫報當事者は只平均雨量と降雨状態並びに水位觀測所に於ける出水直前の水位を知らば此表に據りて即坐に最高水位を豫想し得べき筈なり。單に係數の簡易を欲せば洪水位に據りて例令ば大中小の三種に分ち論據を別にして平均雨量と有效雨量との關係を算定することゝせば容易に其目的を達し得べし。元來拙著は之を以て直ちに洪水豫報の材

料たらしむるには尙不備の點多きこと前に記せる如くなるのみならず該記事は廣く讀者の高覽に供せんが爲めに調製せるものに非らず、只職務上説明の要録として記し置きしを先輩の勸誘に由りて勿卒に投書せるものなるが上に生來の拙文は讀者の解釋を苦しましめし點多々有りしを畏る。中山博士の拙著に對する第一の提案なる終止日の雨量報告を待たずして最高水位を算定すべしとの議も或は畏る拙著の用語の妥當ならざるより來れる疑義なる無きやを。元來初日、中日、終止日なる名稱は最高水位通過後に於て初めて附せらる可きものにして初日と呼ぶも必ずしも雨の降り初めたる日を指さざると同様終止日と云ふも常に降り止みたる日を意味せざるは拙著の附表の最後追加欄に掲げたる大正十二年七月十七日乃至二十五日の連續降雨の場合を見れば明かなる可し。實際此初、中、終止の命名に就ては余の大に困却せし所にして凝つては思案に餘り最も拙なる結果と成りしは讀者に對して謹みて謝するの外無し。單に洪水豫報時刻を早くするを欲せば雨量報告到着毎に次日の降雨量をも豫想して概略の最高水位を發表して水防の準備を爲さしめ更に次日の雨量報告到着を待ちて精確なる水位を發表することゝせば可なり。如斯すれば最高水位襲來時刻切迫するの嫌あること博士の言の如しと雖も已に部署に就ける水防隊は最後の確報を得て勇を新たにし所謂最後の五分間に於て凱歌を奏し得るの利有りとする。

次に水位觀測所の本據を上流一の關附近に移すべき議は余が多年の宿望なるも如何せん同所は改修區域外に在りて微力なる余の如きは之が漸行に困難なるを遺憾とす。(完)